



語彙・文法のレベルをコントロールした教材づくり —レベルにあった授業のために—

学習者のレベルに合わない教材を使うと、学生も教師も苦労します。教室で内容に関わる活動を円滑に取り入れるためにも、生教材に近い内容を保ちながら、テキストの語彙や文法のレベルを学習者のレベルに合わせて的確にコントロールする必要があります。本研修では、特に語彙面でのコントロールの必要性に関する理論的な背景を説明した上で、各種の web 上のツールを使いながら、語彙・漢字や文法のレベルをコントロールし、生に近いライト教材や書きおろし教材を作成する方法について学びます。応用例として流暢さを上げるための速読の授業にも触れます。素材の探し方についても、みなさんとともに考えてみたいと思います。

日時: 2015年11月14日(土)10時~17時

会場: 東京大学 駒場 I キャンパス10号館201教室 (CALL 教室)

交通: 京王井の頭線 駒場東大前駅すぐ [アクセス・地図](#)

講師: 松下達彦氏 (東京大学)

コーディネーター: 石澤徹, ヤン・ジョンヨン (教師研修委員)

対象: 現職の日本語教員, 日本語教育研究者, 日本語教育の勉強・研究をしている学生・大学院生など。

定員: 40名 (先着順)

内容: 予定のため変更することがあります。

- 10:00-11:00 講義 (語彙レベルコントロールの必要性など), 質疑応答
- 11:00-12:00 有用なツールの紹介, 利用法の解説・実習
- 13:00-15:00 教材作成, 相互コメント・ディスカッション (休憩)
- 15:00-16:00 講義 (流暢さ, 速読など)
- 16:00-17:00 教材活用例 (速読) の紹介・体験, まとめ

受講料: 一般 5,000 円, 日本語教育学会会員 4,000 円, 学生 3,000 円

事前課題: 対象レベルを各自で設定して, 授業でリライトして使いたいと思う文章 (1000 字以内) を MS-Word 形式のファイル (.docx または .doc) またはテキストファイル (.txt) にして, USB メモリに入れて持参してください。

対象ツール: 事前にどのようなツールが見ておくとよいでしょう。

- ・日本語テキスト語彙・漢字分析器「[J-LEX](#) (Japanese Lexical Analyzer)」
- ・筑波大学留学生センター「[学習項目解析システム](#)」ほか

～講師からのメッセージ～ 松下達彦氏 (東京大学)

日本語教師の仕事は日本語学習を「仕組む」ことだと思っています。さまざまなコミュニケーション活動を通じていつの間にか日本語が習得されているというのが理想です。語彙や文法のコントロールはそのための「しかけ」です。それを学習者の気づかないところで「仕組む」のがプロの仕事だと思います。言語学習もコミュニケーションも根性だけではできません。語彙や文法のコントロールは応用言語学的な知見に基づきますが、目指すのは適切な「しかけ」によって活発なクラス活動ができるようにすることです。



11月4日
締切

◆申込方法◆

参加申込書を学会ホームページ

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

からダウンロードして、メール添付または FAX でお送りください。メール応募の場合、題名は「教材研修申込」としてください。申込書が到着次第、折り返しメールで受講料の振込先等をご連絡します。締切は11月4日(水)ですが、定員になり次第、締切日前でも募集を終了します。

◆注意事項◆

申込書を送っても学会からの返信メールが到着しない場合は書類未着の可能性がございますので、必ずご自身の責任においてご確認ください。事務局対応は平日の9~18時です。週末や夜間メールへの対応は翌日以降となります。なお、本募集に関して集めた個人情報は本研修の実施以外の目的には使用いたしません。また、応募書類は返却いたしません。

◆申込および問合せ先◆

公益社団法人 日本語教育学会
教師研修委員会事務局

〒101-0065 東京都千代田区

西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

TEL : 03-3262-4291

FAX : 03-5216-7552

E-mail : kyoshikenshu (あつとまーく)

nkg.or.jp



【日本語教育学会教師研修委員会宛】 メール kyoshikenshu@nkg.or.jp FAX 03-5216-7552

「語彙・文法のレベルをコントロールした教材づくり」(2015年11月14日)

参加申込書

氏名	(漢字) (ローマ字)
所属	所属先名: 役職(学生は学年):
会員種別	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 日本語教育学会会員 [No. _____] <input type="checkbox"/> 大学院生
住所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場
電話	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 携帯
FAX	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> なし
E-mail 携帯アドレス不可	※連絡の基本はEメールとなりますので、間違いがないかご確認ください。
日本語教育経験	年数: _____年 主な対象者・レベル(_____)
<p>1. 受講動機</p> <p>2. テキストの範囲指定, コピー, 貼りつけができますか。→「はい・いいえ」(どちらかに○, 以下同) * できない場合は, できるようにして研修に参加することが望ましいです。</p> <p>3. これまでに語彙や文法のレベルを調整するために自分で教材をリライトしたことがありますか。→「はい・いいえ」 コメント:</p> <p>4. リライトのもとになるテキストは, どのようにさがしますか。また, テキストを選ぶ基準は何ですか。</p> <p>5. 流暢さ(Fluency)を上げるための授業の実践をしたことがありますか。→「はい・いいえ」 * (「はい」の方は)どのような授業ですか:</p> <p>※文字数等は問いませんが応募用紙全体がA4, 1枚に収まるようお願いいたします。</p> <p>この研修コースを何で知りましたか。該当するものに☑をつけてください。 <input type="checkbox"/> (1)学会からのメール <input type="checkbox"/> (2)その他からのメール(_____) <input type="checkbox"/> (3)学会ホームページ <input type="checkbox"/> (4)学会からのチラシ <input type="checkbox"/> (5)学会誌『日本語教育』 <input type="checkbox"/> (6)友人・知人 <input type="checkbox"/> (7)大学・日本語学校等機関(_____) <input type="checkbox"/> (8)その他(_____)</p> <p>当日研修の様子を記録・広報等の使用目的で写真撮影をいたします。 該当するものに☑をつけてください。 → 研修当日の撮影を <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない</p>	